

## 平成 27 年度 第 1 回進路指導研修会兼県外視察報告会 記録

1 日 時 平成 28 年 3 月 10 日 (木) 午後 1 時 ~3 時 30 分

2 場 所 静岡県私学会館 (5 階)

3 内 容

(1) 部会長挨拶 : 静岡北中学校・高等学校 廣住 雅人 校長

2030年には存在しない仕事があるだろうといわれている昨今、生徒たちが新時代を生き抜く能力を身につけるために、進路指導で試行錯誤していることではないかと思う。われわれ教員は積極的に日々新しいことにチャレンジしていかなければならない。研修によってそのヒントが得られれば良い。

(2) 県外視察報告

① 山梨英和中学校・高等学校

報告者 日本大学三島高等学校・中学校 谷口富太郎 先生

視察日時は平成 27 年 11 月 16 日。iPad を利用した ICT 教育についての視察であった。授業見学は 4 クラス (中学 2 年英語・中学 3 年英語・高校 1 年世界史・高校 1 年数学) で実施。動画を見せることができるため、授業が効果的に行えるということであった。課題を音声で提出させるようなことも行っていた。iPad の活用に関して使用上のルールが細かく作っており、各クラス iPad 委員がいて、ルールは状況に応じて委員の会議で常に作り変えられていっている。インターネットに常時接続できてしまうため、中学生時代のリテラシー教育に特に力を入れている。学校全体への導入は英語科の教員が主導で行った。新しい機材を導入することで、別の角度から授業をとらえ直すことができ、教員にとっても刺激になるのではないかと。

質問

・反転授業について

ベネッセのクラッシュを使用 内容についてのプリントを教員が準備して生徒がそれを埋めてくるという形であった。

・使う時間について

ルールを破る生徒も出てはいる。そういった場合は職員室預かりとし、期間を経て保護者に返却。

・購入について

各自で購入するように通達し、家庭で購入させていた。

② 山梨学院大学附属中学校・高等学校

報告者 磐田東中学校・高等学校 村田秀寿 先生

視察日時は平成 27 年 11 月 17 日。厳しい環境の中で学校が生き残っていくにはどうすればよいのかという問いに対する回答のひとつ。

定員をかなりオーバーした人数が在籍。国公立合格者はほぼ特進コース在籍。進学コースは学習と部活動の両立を重視している。大学合格実績として重視しているのは、東京大学および山梨大学医学部医学科である。保護者や生徒の希望がそういった方向性であるとい

うことであった。私学にとってこの山梨は非常に厳しい環境であるが、30年後に学校を存続させていくために常に新しい取り組みを行っている。①プロジェクターの導入②教科センター方式の導入③単位制とセメスター性の導入④国際バカロレア (IB) 認定、の4点について紹介。山梨学院大学にも訪問。

### (3) 講演

演題「大学が変わる、入試が変わる ～大学入試に関わってきた者からのレポート～」

講師：静岡大学 全学入試センター長 教授 寺下 榮 様

#### ・大学が変わる、入試が変わる

入試改革の歴史について解説。昭和41年当時は大学入試ランキングなどは重視されていなかった。昭和55年当時（共通一次時代）でもそれほど変化はなかった。センター試験導入時あたりから徐々に重視されるようになってきた。大学入試について真剣に考え始めた時期を学生にアンケート調査すると、近年は少し早まってきている。「静岡大学の受験を決めたのは」という質問の回答は昔も今も変わらず、センター試験直後が圧倒的に多い。アドミッションポリシーなど生徒は何も見していない。常に学校を決定した理由の最下位。入試制度を何十年かおきに変更してきたが、一般的な評価はそれほど変化していない。だからといって今後変化しないというわけではないが……。静岡大学の入学者数の推移もただ隔年現象がおきているだけ。今年の改組の影響などまったく何も出ない。

#### ・中教審答申を受けて

改革の方向性は理解できないこともないが、実施時期だけが決められていて内容は不透明。「多面的・総合的に評価」というけれど、それでは現在のA0入試そのものではないか？ 高大接続システム会議「中間まとめ」の中で、個別学力試験を認めるような記載がある。旧帝大などでは、問題の出し方などは検討されると思うが、基本的には現在と大きく変わらないのではないかと。高大接続システム改革会議の配布資料は閲覧できるので、時々チェックしてみると良い。国語の記述において機械化採点はかなりきつい。文章表記として「十分検討する」とあれば、それは「できません」ということである。「検討する」や「検討を継続」という表現が使われている記述については、できない、やらない、ということであろう。結果として、12月～1月で記述式入試を実施し、その後1月中旬にセンター試験に代わる試験の実施、という形になるのでは。センターに代わる試験複数回実施は不可能だろう。

今までの入試では、A0・推薦・一般の3種類だったが、今後、どの試験にも多面的・総合的評価を入れろという。入学者選抜の実施時期について、全国の国立で少しずつA0入試の枠を拡大させていくのではないかと。夏休みや土日に複数回実施していくような形になるのではないかと。就職のときのエントリーシートのようなものを受験生に書かせることになりそう。実施が早まることで、学校行事の見直しが必要になる。私立大学は2月からの一般入試が困る。読めない入学者数に対して、国の定員管理は厳しい。定員を10%超えてしまうとペナルティがあるし、欠員であれば経営危機となる。また、国立の9月10月入試が拡大すると私大はえらいことになる（立命館大学の見解）。結果として、試験の早期化・困

い込みが加速することになる。

・静大での議論

12月3日に会議実施。入試の基本的方向性について議論

- ・英語の外部入試導入の是非についての議論（英語の力を重視したい）
- ・問題の難易を段階別に設定する必要があるのか（白紙答案をなくしていくために）
- ・全学共通入試によってどちらのキャンパスでも受験可能にしてはどうか
- ・他大学と連携が必要になるのでは？

優先課題①英語力 数学が得意だと英語が苦手であることが多い

優先課題②他大学との連携

福井・三重・静岡の広域3大学で高大接続入試・個別選抜への提案を行う

県大・文芸大・静大で富士山セレクション 県内3大学合同選抜 浜医にも要請

山梨にも声を掛けてみてはどうか？ 教育委員会には話してある

福井・三重・信州・香川・佐賀・静岡の6大学で入試改革の会議を実施した。

福井大学・佐賀大学・信州大学の例の説明。

本年5月中旬WGを立ち上げて全学で議論開始予定

まとめ

大学生に高校時代に想像していたことと実際との最大の違いが何かを書かせている。

高校時代の学びの姿勢には学生による大きな差異はない。大学に入学してから気づくことも同じで、自分で動かなければ何も進まないということや分からないことは自分で調べる・聞くということなど。大学は初年次教育がきわめて重要。

今回の「改革」は国立大学が変われば、高校側も変わり接続にあたる「入試」も変わる。